



2026年1月4日(日)
1月第一主日礼拝式／聖餐式

「さあ賛美しよう」

(詩篇18:46)

さあ賛美しよう 救い主イエスに

さあ賛美しよう 救い主イエスに

ホザナ たたえよう

賛美しよう 救いの岩

ホザナ たたえよう

賛美しよう 救いの岩に

90 栄光イエスにあれ

栄光 栄光 イエスにあれ

栄光 栄光 イエスにあれ

み座にいます 小羊よ

ほむべきお方

あなたはすべおさめる

とわに正義をもって

新聖歌521番 「統治(すべしら)す神よ」

- 1 すべしらす神よ ときわに導く
み手のおおみわざ われらほめたたう
 - 2 新しき年(とし)は 主の愛をしめす
恵みは絶(た)えせじ 年(とし)の終わるまで
 - 3 家にも旅にも 夜昼(よるひる)分(わ)かたず
み恵みを受けて この年(とし)を過ごさん
 - 4 われらの行く先 さだかに見えねど
みちびく光に 身をゆだねまつらん
 - 5 禍幸(まがさち) 良し悪し 行き交うなかにも
われらの喜び 安きは主にあり
- アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖靈によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、

十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、

三日目に死人のうちよりよみがえり、

天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。

かしこより來たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。

われは聖靈を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、

罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、

永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌233番 「驚くばかりの」

- 1 おどろくばかりの 恵みなりき
この身の汚(けが)れを 知れるわれに
- 2 恵みはわが身の 恐れを消し
任(まか)する心を 起こさせたり
- 3 危険(きけん)をも わなをも 避(さ)け得(え)たるは
恵みのみわざと 言(ゆ)うほかなし
- 4 御国(みくに)に着く朝 いよよ高く
恵みの御神(みかみ)を たたえまつらん

アーメン

新聖歌108番 「丘に立てる荒削りの」

- 1 丘に立てる 荒削(あらけず)りの 十字架にかかりて
救い主は 人のために 捨てませり いのちを
* 十字架にイエスキみ われを贖(あがな)いたもう
十字架の悩みは わが罪のためなり
- 2 世人(よびと)笑い あざけるとも 十字架は慕わし
小羊イエス 神の御子が つけられし木なれば
* (くりかえし)
- 3 朱(あ)けに染(そ)みし 荒削りの 十字架はうるわし
赦しあたえ きよくするは ただ主の血あるのみ
* (くりかえし)

新聖歌108番 「丘に立てる荒削りの」

4 責めも恥じも 辛く(つら)あらじ 十字架に代わりて
たまの冠(かむり) 受くる時を 日々待てるわが身は

* 十字架にイエスキみ われを贖(あがな)いたもう
十字架の悩みは わが罪のためなり

アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を來たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらのにちようの糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌60番 「天地(あめつち)こぞりて」

あめつち こぞりて

かしこみたたえよ

みめぐみ あふるる

父 御子(みこ) 御靈(みたま)を

アーメン